

第367 昭和の森自然観察会

タネの旅

梅宮玲子（市原市）

日 時：2022年11月13日（日）10時～12時 天気：曇り

参加者：18名（大人11名、子ども7名）、指導員6名、他1名

担当指導員：玉川弘幸・梅宮玲子

やや曇り空のもと「タネの旅」の観察会が昭和の森で実施されました。消毒、検温を済ませ、2班に分かれ、1班はすぐそばにあるケヤキの種探しからスタート。種といわれても参加者にはピンとこないので、「葉っぱについて、とても小さいよ。」とヒント。まず子ども達が見つけました。実を上から落としてみると葉がプロペラ変わり、風散布であることが判明しました。

冒険広場に向い、ハンノキの実を観察してからハクウンボクの木の下へ。ハクウンボクの実はヤマガラが大好物であちこち木の穴などに隠して冬の食料にするため備蓄します。食べ残した実から芽が出るので動物散布であることがわかりました。

隣のヌルデの実を探してもらうと、奇妙な緑色の塊がぶらさがっています。でも、茶色の実が他にある。実は昔、塩の代用品になったと、武田指導員。緑色の塊を開いてみると、空洞になつておらず、白い粉が少々。別の班の塊（ヌルデミミフシ）には、まだ虫が残っていて、羽のついたヌルデシロアブラムシを見ることができました。昔の人はお歯黒の材料に使用したそうです。量が少ないので貴重品で身分の高い人やお金持ちしか使えなかつたとか。

隣のスイフヨウの種をよく見ると、柔らかそうな毛がついていて、風に吹かれて広がり風散布。近くの低木にはチカラシバ、ヤブマメ、イノコヅチ、コセンダングサなど。少し移動して枝からぶら下がっているアカシデ（やや小さく両側縁に鋸歯）、イヌシデの実（片側縁に鋸歯）も違いを実感。茶色くなったイヤリングのような実を選んでおとしてみると、ヒラヒラと優雅に落下（風散布）。

広場を通って林縁で白い布を子どもたちと一緒にかぶせて、何がつくのか実験。イノコヅチなど引っ付き虫多数。近くでムカゴ（ヤマノイモ）を発見。ムカゴを実だと思っている人もいたので、実との違いを観察。11時半になったので、メタセコイア、キリの実をみてから四阿にもどり、指導員が持参のカラスウリやアオツズラフジの実を割り 種を観察。カラスウリはお財布に入れると、お金がたまるのだとか。アオツヅラフジはアンモナイトの形に似ています。

最後に市原の神社の銀杏を1家族1袋お土産に渡しました。

参加者の感想は、楽しかった。普段、気が付かなかつた植物のいろいろなことが解ってよかったですなど、身近な自然に関心を持つもらうことができたようです。



ヌルデシロアブラムシをルーペで見る参加者